

「女性中心の国」の観光もできる都市

「クアラルンプール・マラッカなど、マレーシア」

街plus
探訪



マレーシア・日本国際工学院
山田吉英 Yoshihide Yamada

1 まえがき

2014年からマレーシア・日本国際工学院 (MJIT) に勤務しています。こちらで生活していて強く感じたことは、女性が社会の重要な地位を占めて活躍している点です。他のイスラム諸国と比較しても、マレーシアの特徴だと言えます。また、日本人にとって最も住みたい外国として、10年連続でマレーシアが選ばれています。しかし、日本では観光地としての知名度が低く、関心が少ないのが残念です。マレーシアの現状や大学事情を説明するとともに、主要都市の魅力を紹介します。

2 マレーシアという国

2.1 国土・歴史・産業・民族・宗教

赤道に近く、北緯5度近辺にあります。気温は1年を通して25℃から33℃で、大変過ごしやすい。日本から航空機で7時間足らずの距離にあります。国土は、

西側のマレー半島部とボルネオ島の北半分から成り、面積は日本の0.9倍を有します(図1)。

太平洋戦争後にイギリスの統治から脱し、1957年に独立を果たしました。昨年、独立60周年を迎えた、新しい国です。国旗はイスラムの象徴である月と星を表し、赤と白の線はマレーシアの13州とクアラルンプール市を表しています。国の花はハイビスカスです(図1、マレー語ではBunga Raya)。人口は、3,000万人程度とかなり少ないです(表1)。

国の産業は、ボルネオ島沖で産出される石油と、国全域で栽培されているパームオイルが主たるものです。1981年に就任した第4代マハティール首相が掲げた「ルックイースト政策」により、急速に工業化が進みました。

民族構成は、50%がマレー人、22%が中国人、12%が先住民、7%がインド人で、その他が9%です(表1)。宗教は61%がイスラム教、20%が仏教、9%がキ

表1 マレーシアの概要

Ethnic	50.1% Malay, 22.6% Chinese 11.8% Indigenous (先住民) 6.7% Indian, 8.8% other
Population	31,747,000 (2017 estimation)
Independence	31 August 1957
Inclusion of Sabah & Sarawak	16 September 1963
Yang-Dipertuan Agong (King)	Sultan Muhammad V (December 2016-Present)
Prime Minister	Najib Razak
States	13 States 3 Federal Territories (KL, Putrajaya, Labuan)
Language	Official: Bahasa Malaysia Second: English
National flower	Hibiscus
Religion	Official: 61.3% Islam (Sunni) Other religions: 19.8% Buddhist, 9.2% Christian 6.2% Hindu, 3.4% other
Capital	・ Kuala Lumpur ・ Putrajaya (administrative)

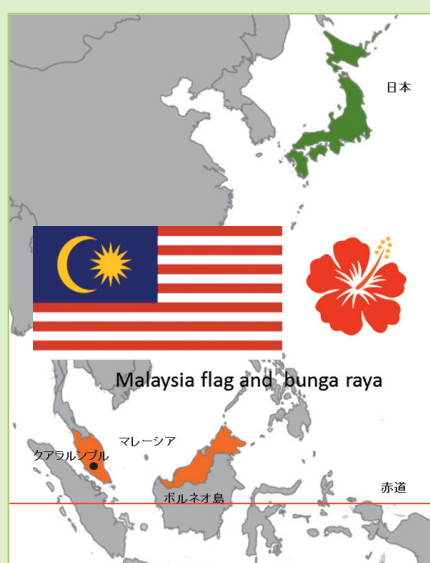


図1 マレーシアの位置



図2 大学の授業風景

リスト教、6%がヒンズー教で、その他が3%です。このように多民族と多宗教の人々が混在していますが、お互いを尊重し合っており、とても友好的に生活しています。小さい頃から多くの外国人と一緒に過ごす環境にあるため、外国人に対して寛容な国民性が育まれているようです。また、主要な4宗教が別々の祭日を設けており、国の祝日となっています。少し休日が多いかな、という印象です。

特筆すべき行事として、イスラム教のラマダンがあります。1年に一度、1か月にわたり日の出から日没まで、食事と水を断つ断食を行います。この期間は、学校でも生徒が断食を行うため、少し疲れた様子がうかがえます。ラマダン明けには1週間のハリラヤ休日があります。

2.2 女性の独立心

タイトルに掲げたように、女性の社会進出が大変に進んでいます。身近なところでは、勤務先の工学院院长や、マレーシア工科大学 (UTM) クアラルンプール分校のキャンパスディレクターも女性です。キャンパスディレクターの話では、現在の女性の状態は、イスラム社会で最も進んだ段階のものだそうです。長い歴史を経て、今の女性の地位が築かれたということです。

図2に大学の授業風景を見ると、女性が多いことが分かります。男子学生は卒業とともに社会に出て働きます。女子学生は修士や博士課程に進み、高度な教育を受けます。女性の高学歴が独立心や社会的活動の基礎になっているように感じます。産休などが当然の権利として社会に定着しており、働きやすい環境が整えられています。

3 マレーシアの大学事情

マレーシアの大学は、4年制の国立大学 (20校) と私立大学 (68校) 及び3年制のポリテクニク (32校) から成ります (表2)。国立大学のうち、5校がリサー

表2 マレーシアの大学区分

Type	No
	20
Public University (At least one university in 14 states)	5 research Universities: 1. University of Malaya (UM) 2. Universiti Teknologi Malaysia (UTM) 3. Universiti Kebangsaan Malaysia (UKM) 4. Universiti Putra Malaysia (UPM) 5. Universiti Sains Malaysia (USM)
Private University, University colleges	68
Polytechnics (Bachelor's degree, Advanced Diploma)	32



図3 MJWRT2017の開催

チ大学に指定され、研究活動の中心となっています。

研究の交流の場である学会活動は、電気通信分野では IEICE に相当する学会は存在せず、IEEE のソサイエティを基にした研究グループが設けられています。しかし、研究者間の交流の場が少ないのが現状です。

本会のアンテナ・伝播研究専門委員会 (A・P 研) は、国際交流の推進の一環として、2015 年から隔年でマレーシアで国際会議 MJWRT (Malaysia-Japan Workshop on Radio Technology) を開催しています (図3)。参加者数がマレーシアから 50 名程度、日本から 20 名程度の規模で行われています。マレーシア側の研究者に良い刺激となり、歓迎されています。

4 MJIT について

筆者が勤務しているマレーシア・日本国際工学院 (MJIT) は、マレーシアに日本型工学研究教育を導入するために、マレーシア政府と日本政府の共同事業としてマレーシア工科大学 (UTM) の一学部の形で 2010 年に設立されました。日本側では 26 の大学がコンソーシアムを作り、教員派遣や学生交流プログラムの実施などで協力しています。

場所は、UTM クアラルンプールキャンパス内にあり



図4 MJITの校舎

ます（図4）。マレーシアの観光名所であるペトロナスツインタワーに近く、クアラルンプールの中心に位置しています。学部学生用に、電子システム工学、機械精密工学及び化学プロセス工学の3学科が設けられています。更に、修士課程と博士課程も設けられおり、東南アジアや中近東からの多くの学生を教育しています。教員総数は84名で、そのうち日本人教員が13名を占めています。女性教員数が32名に上り、ここでも女性活躍の状況が表れています。

5

主要な観光都市

マレーシアには多くの観光地がありますが、主なものとして図5のような箇所が有名です。各地の特徴を紹介します。

5.1 クアラルンプール

マレーシアの首都であり、貿易、商業、政治など国内の中心的役割を果たしています。人口は約180万人です。クアラルンプールとは「泥の川の合流点」という意味で、かつてすず鉱石の採掘拠点として栄えていた名残りの名称です。ここ15年ほどで、急激に近代化された街だそうです。1998年には、マレーシアのシンボルであるペトロナスツインタワーが完成しました（図6）。その後、大型ショッピングモールや高級ホテルが続々とオープンしました。エキゾチックな熱帯植物の公園、イギリス統治時代の面影を残す歴史建造物、活気あふれる市場、各民族のモスクや寺院などが混在しており、クアラルンプールの魅力的な雰囲気を作り出しています。また、町中はカラフルな民族衣装に身を包んだ様々な民族が行き交い、非常にエネルギッシュ感が感じられます。市内の観光スポットも多く、ショッピングと屋台街として有名なブキッピンタン（星ヶ丘）、ビジネス街とともにツインタワーやKLタワーなどがあるKLCCエリア、歴史的建造物が集まるムルデカスクエア（独立広場）などがあります。

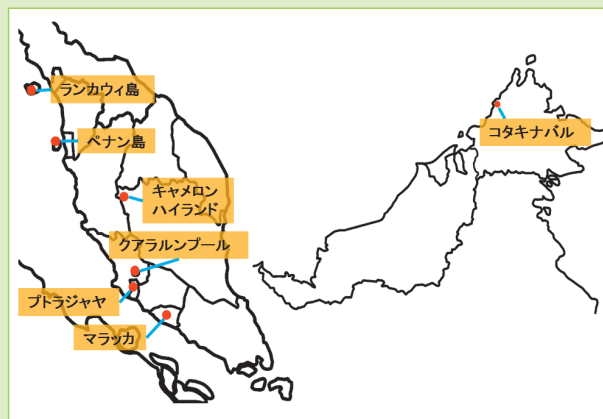


図5 主要観光都市の所在地



図6 ペトロナスツインタワー

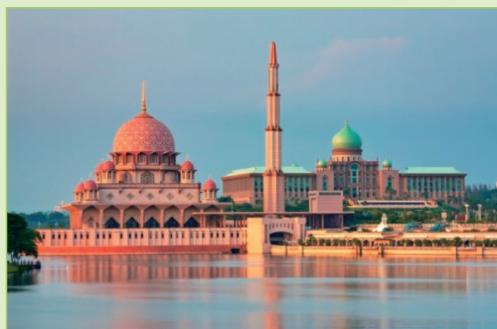


図7 プトラモスクと首相官邸

5.2 プトラジャヤ

1999年に政府の行政機関をクアラルンプールから当地に移転しました。クアラルンプールから南方に約30kmの位置にあります。図7は、中心部にあるプトラモスクと首相官邸（プトラビル）の風景です。手前は広大な人工の湖です。湖の周辺に多くの行政機関が配置されています。この地でも驚いたのですが、退庁時間になると女性職員と見える人々で、通りが一杯になります。

5.3 マラッカ

クアラルンプールから120kmの距離にある歴史に富んだ都市です。市内の丘に、日本人によく知られたフランシスコ・ザビエルの像があり、親しみが湧いてきます。古くはマラッカ王国がありましたが、1551年に



図 8 学生と訪れたオランダ広場



図 11 ランカウイ・ケーブルカー



図 9 一面の紅茶畑（キャメロンハイランド）



図 12 キナバル山



図 10 英国風の建築が残るジョージタウン

ポルトガルに占領され、交易都市として栄えます。1641 年にはオランダに占領されます。市内にはポルトガルやオランダ様式の歴史的建造物が多く残されています。中でも、オランダ広場（図 8）は、色彩感に満ちた有名な観光スポットとなっています。

5.4 キャメロンハイランド

マレー半島部屈指の高原リゾート地として有名です。1885 年にイギリス人のウィリアム・キャメロンによって見いだされ、紅茶の栽培地として開拓されました。多くの丘陵が茶畑で埋め尽くされている景観は見応えがあります（図 9）。現在でもマレーシアを代表する有名な紅茶である BOH（Beyond of Horizon）茶が栽培されています。

5.5 ペナン島

1786 年にイギリス東インド会社にペナン島が割譲され、イギリス風の建築物が多く残されています。ジョージタウンという地名もイギリスの名残りです（図 10）。現在では、観光地とともに工業地域としても有名となっ

ています。

5.6 ランカウイ島

自然が豊かなリゾートアイランドです。ランは「イーグル」を意味し、カウイは「大理石」を意味します。イーグルの生息地があり、リバークルーズで観察することができます。また、島の絶景が見下ろせるランカウイ・ケーブルカーも、有名な観光拠点となっています（図 11）。

5.7 コタキナバル

ボルネオ島北部の観光都市として、人口が約 55 万人のコタキナバル市があります。大部分が生物多様性豊かなジャングルや海など、豊かな自然に恵まれています。オランウータンの生態が見られる動物園などもあります。また、標高が 4,095m のキナバル山があり、登山者に楽しまれています（図 12）。

山田吉英（正員：フェロー）

NTT, NTT DoCoMo, 防衛大学の勤務を経て、現在は MJIT (Malaysia) での勤務です。アンテナと電波伝搬関連の研究者と楽しく交流を行っています。
連絡先: ndayamada@yahoo.co.jp

